

自学自習のすすめ

令和2年4月9日
環境デザイン学科 教員一同

本来であれば4月8日から大学での講義が開講され、期待に胸を膨らませていた大学生活が始まるはずでした。しかしながら、新型コロナウイルスの足音が聞こえ始めたため、開講が1ヶ月遅れることになりました。新しい大学生活への期待よりも不安の方が大きくなり始めているのではないかと思います。

環境デザイン学科では、そんな皆さんに対して自習勉強を提案します。これは課題ではありませんので、提出の必要はありません。したがって、皆さんの学習を評価するために使うことはありませんし、成績に反映することもしません。この自習勉強を通じて、自己と向き合い、環境デザイン学の基礎を築いて欲しいと願っています。開講後の講義の理解を直接的に助けてくれる内容や、2年後3年後あるいはもっと先になってジワリと効いてくる内容を提案しています。この1ヶ月の自習勉強だけでなく、今後の学習にも活用してください。そして、分からないことがあれば、それをノートにメモし頭の片隅にしばらく置いておいてください。なぜ分からないと思ったのか、疑問の根元はどこにあるのか、そうしたことを考えるのも重要な学習です。皆さんとキャンパスでお会いした時に、あらためてその声を聞かせてください。もし、どのように取り掛かればよいのかわからない、という課題があれば、どこがわからなかったか、難しく感じたかをメモしておいてください。苦手なことや難しいと思った課題をひとまず後回しにして、面白そうだと思ったことや得意なことからはじめてもよいと思います。「手を動かす」より、まず「本を読む」ということでもよいでしょう。ただし、何がわからなかったのか、苦手になったのかをきちんと受け止め、どう克服すればよいかを考えてみることは大切です。大学で通常の講義が始まるようになれば、機会をみつけて、課題を出した教員に直接、尋ねるのもよいでしょう。これから皆さんが立ち向かわなければならぬ答えのない問題も、きっとこうした学習の中の一環から解決できるものと信じています。

概要

1. 手を動かして学ぶ

- 1.1 スケール感を学ぶ
- 1.2 京都の現代建築を学ぶ
- 1.3 変形と壊れ方を学ぶ
- 1.4 観察とデッサンの基礎
- 1.5 住生活とハウジング論
- 1.6 住環境と防災計画論

2. 本を読んで学ぶ

- 2.1 建築に関するもの
- 2.2 ランドスケープに関するもの
- 2.3 持続可能な社会に関するもの
- 2.4 コミュニティ・まちづくりに関するもの

- 2.5 災害に関するもの
 - 2.6 住生活に関するもの
 - 2.7 住環境・生活設備に関するもの
 - 2.8 教養に関するもの
-

1. 手を動かして学ぶ

1.1 スケール感を学ぶ（河合教員）

【目的】スケール感を養う

【時間の目安】3時間

【道具】鉛筆, A4 サイズ用紙（方眼紙可）, メジャー

【具体的な方法】自室の実測

対象：実家の自室（兄弟姉妹同室可）などの一室, 下宿先の自室

作業：室内の壁の位置, 窓の位置と大きさ, 置いてある家具の平面の寸法を計測して, 図面化する。

提出：A4 サイズ用紙に納まる様に（壁の位置, 家具の大きさの寸法を記入）

仕上げ：鉛筆のまま, フリーハンド

留意：事例を参考に, 位置や大きさの比率が概ね整合するように

1.2 京都の現代建築を学ぶ（河西教員）

【目的】京都の身近な現代建築から設計の考え方を知る

【時間の目安】3時間程度

【道具】インターネットにつながる機器

【具体的な方法】下記の建築事例についてインターネット検索で調べてください。外観・内観・全体構成などの特徴について考察してください。

- ・国立京都国際会館（設計：大谷幸夫）
- ・京都コンサートホール（設計：磯崎新）
- ・京都府立陶板名画の庭（設計：安藤忠雄）
- ・京都府立大学京都学・歴彩館（設計：飯田善彦）
- ・TIME'S（設計：安藤忠雄）
- ・京都国立近代美術館（設計：槇文彦）
- ・ロームシアター京都／旧京都会館（設計：前川國男）
- ・京都国立博物館 平成知新館（設計：谷口吉生）
- ・京都駅ビル（設計：原広司）

【補足】環境デザイン実習Ⅰ～Ⅱ（1回生必修科目）では、建築の製図や設計の基礎について学びます。その前段として、私たちの身近にある現代建築の著名な事例について知っておくことには意義があると思います。外観や内観などの画像だけではなく、図面（平面図・断面図・立面図）と照らし合わせて理解することが重要です。3次元の実物と2次元の図面との関係から、建築の基礎的な内容を学ぶことができると思います。図面については、インターネットで入手可能な範囲で結構です。

1.3 変形と壊れ方を学ぶ（田淵教員）

【目的】変形と壊れ方を観察する

【時間の目安】30分程度

【道具】割り箸（数量は適宜），できれば，スマートフォン

【具体的な方法】割り箸を1本（1膳ではない）折ってみてください。どのように折れたかを観察してみてください。破壊が始まった場所，破壊の進む方向，あるいは，音はどうでしたか？具体的にスケッチをしたり，言葉にして現象を表現してみてください。可能であれば，スマートフォンのカメラを利用して，スローで録画して，破壊の直前の様子を観察してみてください。なお，現在流通している割り箸はカバ（白っぽい木目の明瞭でないもの），スギ（やや赤茶色の木目が明瞭なもの），および，竹が一般的です。樹種の違いと壊れ方の違いや共通点についても考察してみてください。

1.4 観察とデッサンの基礎（福井教員）

【目的】観察からデッサンの技術を高める

【時間の目安】一回30分弱程度

【道具】鉛筆（B以上），スケッチブックなど

【具体的な方法】1. 身の回りの1枚や複数の葉，花などを素材によく観察し，丁寧にデッサンしてください。葉脈や葉柄，花卉などもよく見て，そして影をよく捉えて描いてみてください。1日描いたら終わりではなく，複数日，身近な葉や花を描いてみてください。

1.5 住生活とハウジング論（檜谷教員）

【目的】住まいについての情報検索に習熟する。また高校の家庭科等で学習した住生活に関する基礎知識を使いこなし，住まいに関する問題発見や，課題の所在を把握できるようにする。

【時間の目安】4.5時間程度

【道具と具体的な方法】以下のサイトでは，住まいの安全・安心等について考えるための情報や知っておいてほしい住まいに関する知識が掲載されています。こうしたサイトにアクセスし，適切な住まいについて，自分の考えを整理してください。

1) 住まいの情報発信局 <http://www.sumai-info.jp/index.php>

（同・親子の住まい方教室 <http://www.sumai-info.jp/oyako/index.html>）

2) 神戸市スマイルネット 住教育支援－授業プログラム

<https://www.smilenet.kobe-sumai-machi.or.jp/education/>

3) ハビタット <https://unhabitat.org/knowledge/global-urban-lectures>

【補足】住まいの現状や住まいをめぐる社会の取り組みについて，関心をもったことや課題だと感じたことをメモして，さらなる学習につなげてください。また住生活に関する図書を読み，自身の住まい方や暮らし方と対比するなどして，議論したいポイントを考えてください。

1.6 住環境と防災計画論（前田教員）

【目的】身近な環境における災害リスクについて知り，災害への対応力を高める住環境づくりのための工夫や課題について理解を深める

【時間の目安】 2～3 時間程度

【具体的な方法】 行政等が公開しているハザードマップや避難所情報などをインターネットで閲覧し、自分にとって身近な地域（自宅の周辺、実家の周辺等）で起こり得る災害や非常時の避難場所、避難経路、防災設備等について確認する。地域にどのような災害リスクがあるか、また、防災上の課題は何か、整理してまとめる。また、インターネットを使って地域の災害の歴史を調べることが可能であれば、過去の災害における被害と復興が現在の地域における住環境形成にどのように関わっているのか考察するのもよい。

【参考】 例えば京都市であれば以下のような情報が公開されている。

ハザードマップ(地震・水害・土砂災害) http://www.bousai-kyoto-city.jp/bousai/sub_library.html

避難所等マップ <https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000109137.html>

災害時協力井戸マップ <https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000116289.html>

2. 本を読んで学ぶ

2.1 建築に関するもの

- ・中村好文：住宅巡礼，新潮社，2000年：ISBN-10: 410435001X, ISBN-13: 978-4104350018
https://www.amazon.co.jp/dp/410435001X/ref=cm_sw_em_r_mt_dp_U_1CaJEbNFT4Y6Q
<https://books.rakuten.co.jp/rb/1133907/?l-id=search-c-item-text-01>

2.2 ランドスケープに関するもの

- ・都田徹，中瀬勲：アメリカンランドスケープの思想—ランドスケープ・デザインを志す若人へのメッセージ，鹿島出版会，1991年：ISBN-10: 4306071804, ISBN-13: 978-4306071803
https://www.amazon.co.jp/dp/4306071804/ref=cm_sw_em_r_mt_dp_U_fBaJEb4VMA4AK
<https://books.rakuten.co.jp/rb/500822/?l-id=search-c-item-text-01>

2.3 持続可能な社会に関するもの

- ・持続可能な社会について 平成 29 年版 環境・循環型社会・生物多様性白書 第 1 章 地球環境の限界と持続可能な開発目標 (SDGs)
<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h29/html/hj17010101.html>

2.4 コミュニティ・まちづくりに関するもの

- ・山崎亮：コミュニティデザインの時代 - 自分たちで「まち」をつくる，中央公論新社，2012, ISBN-10: 4121021843, ISBN-13: 978-4121021847
https://www.amazon.co.jp/dp/4121021843/ref=cm_sw_em_r_mt_dp_U_-vhJEbGCCVRS0
<https://books.rakuten.co.jp/rb/11875113/>

2.5 災害に関するもの

- ・中谷内一也：リスクのモノサシ，NHK ブックス，2006年：ISBN-10: 4140910631, ISBN-13: 978-4140910634
https://www.amazon.co.jp/dp/4140910631/ref=cm_sw_em_r_mt_dp_U_vzaJEb0RS8CEH
<https://books.rakuten.co.jp/rb/4096837/?l-id=search-all-non-again>

- ・牧紀男：災害の住宅誌―一人々の移動とすまい，鹿島出版会，2011年：ISBN-10: 430609412X, ISBN-13: 978-4306094123

https://www.amazon.co.jp/gp/product/430609412X/ref=dbs_a_def_rwt_hsch_vapi_taft_p1_i1

<https://books.rakuten.co.jp/rb/11217822/>

2.6 住生活に関するもの

- ・西川裕子：住まいと家族をめぐる物語―男の家，女の家，性別のない部屋：集英社新書，2004年；ISBN-10: 4087202631, ISBN-13: 978-4087202632

https://www.amazon.co.jp/dp/4087202631/ref=cm_sw_em_r_mt_dp_U_y0dJEbGJW4ZEC

<https://books.rakuten.co.jp/rb/1720301/>

2.7 住環境・生活設備に関するもの

- ・内藤 廣：環境デザイン講義，王国社，2011年：ISBN-10: 4860730496, ISBN-13: 978-4860730499

<https://www.amazon.co.jp/環境デザイン講義-内藤-廣/dp/4860730496>

<https://books.rakuten.co.jp/rb/6947765/?l-id=search-all-non-again>

2.8 教養に関するもの

- ・William Strunk Jr., E.B.White：The Elements of Style, Fourth Edition, Peason, 1999年：ISBN-10: 9780205309023, ISBN-13: 978-0205309023

https://www.amazon.co.jp/dp/020530902X/ref=cm_sw_em_r_mt_dp_U_OxaJEb3J7X58B

<https://books.rakuten.co.jp/rb/4770062/>